

[Practical Report]

## A Practical Report on Follow-up Training of Pre-Graduation Nursing Skills in the COVID-19 Pandemic

Tomoe Yonezawa\*, Ayumi Nishigami\*, Yoko Honda\*, Yoshino Saito\*, Emiko Hirayama\*, Maki Maekawa\*  
Akiko Matsumoto\*, Akiko Shimomura\*, Reiko Nakano\*, Shuko Hayashi\*, Masayo Nagai\*  
Takashi Saino\*, Nasoko Matsumoto\*, Hiroshi Abe\*, Rieko Takeuchi\*, Yuka Miyaoka\*  
Toshiaki Ide\* and Mieko Kawabata\*

\* Aino University Faculty of Health Science Department of Nursing

### Abstract

Compared to the situation before the COVID-19 pandemic, students who start working in clinical settings with less time and experience spent in the field are immensely anxious. Such anxiety may lead to reality shock, workplace maladjustment, and early retirement. A “follow-up training for pre-graduation nursing skills” was conducted for students about to graduate. In addition, the evaluation and opinions of the students who participated in the training were surveyed, and future improvements and enhancement of the content of the follow-up training are discussed.

As a result, the overall follow-up training before graduation and each nursing skill item received high student satisfaction ratings. In particular, they showed a high level of awareness and expectation for learning nursing skills that involve physical invasion and nursing skills that are necessary from the early stage after employment. In addition, the “experience of practicing nursing with unfamiliar people” is considered effective as follow-up training before graduation, leading to “enjoyment,” “freshness,” “tension,” and “fulfillment of learning.”

**Key Words:** follow-up training, nursing skills, pre-graduation support, COVID-19

## 新型コロナウイルス感染症流行下における卒業前 看護技術フォローアップ研修に関する実践報告

米澤 知恵\*, 西上 あゆみ\*, 本多 容子\*, 齋藤 祥乃\*  
平山 恵美子\*, 前川 麻記\*, 松本 晃子\*, 下村 明子\*  
中野 玲子\*, 林 周子\*, 長井 雅代\*, 齋野 貴史\*  
松本 七十子\*, 阿部 宏史\*, 竹内 利永子\*  
宮岡 裕香\*, 井手 敬昭\*, 河端 三恵子\*

### 【要旨】

COVID-19 流行前と比べ、臨地実習の場で過ごす時間や経験が少ない状況下で臨床現場へと就職する学生たちの不安は計り知れず、このような不安は、リアリティショックや職場不適應、早期離職へとつながることが懸念される。そこで、卒業を間近に控えた学生たちを対象に「卒業前看護技術フォローアップ研修」を実施した。また、参加した学生たちからの評価や取り組みに対する意見を調査し、今後のフォローアップ研修内容の改善や研修内容の充実について検討した。

結果として、「卒業前フォローアップ研修」全体および各看護技術項目については、満足度の高い評価を得ることができた。特に、身体侵襲を伴う看護技術や、就職後の早期から必要となる看護技術の習得に対する意識や期待感が高いことが伺えた。また「慣れない人との看護実践の経験」は、卒業前フォローアップ研修として効果的であり、「楽しさ」「新鮮さ」「緊張感」「学びの充足」につながると考えられた。

キーワード：フォローアップ研修，看護技術，卒前支援，新型コロナウイルス感染症

### I. はじめに

2019年12月初旬に、最初の感染者が報告されて以降、世界中に広がった新型コロナウイルス感染症の流行により、看護系大学での臨地実習の対応は困難を極めた。

2020年度の領域実習では、病院や施設での実習受け入れが困難となり、2020年6月1日に文部科学省および厚生労働省から出された事務連絡（文部科学

省・厚生労働省，2020）に従って、実習内容の変更、実習時間の短縮、臨地実習の代替（学内実習および演習）を余儀なくされた。また、2021年度の統合看護学実習は新型コロナウイルス感染症に関わる第4波の影響を受け、2021年5月14日に文部科学省および厚生労働省から出された事務連絡（文部科学省・厚生労働省，2021）に従って、臨地実習の代替（学内実習および演習）での実施となった。

新型コロナウイルス感染症流行前と比べ、臨地実習

\* 藍野大学医療保健学部看護学科

の場で過ごす時間や経験が少ない状況下で臨床現場へと就職する学生たちの不安は計り知れない。このような不安は、リアリティショックや職場不適応、早期離職へとつながることが懸念される。

そこで、藍野大学看護学科では梅花女子大学看護学部とタイアップし、2020年度から双方の卒業を間近に控えた看護学生を対象に、3月第2週目頃に看護技術の演習を中心とした「卒業前看護技術フォローアップ研修」を実施している。新型コロナウイルス感染症の終息の兆しは未だ見えず、2020年度に引き続き、2021年度も看護技術の演習を中心とした「卒業前看護技術フォローアップ研修」を実施した。「卒業前看護技術フォローアップ研修」は、単に、既習の看護技術に関する知識や技能を再確認するだけでなく、慣れない人との看護実践の経験を通して、対人スキルを磨くことを目的としている。さらに、2021年度は、慣れない環境や慣れない物品に合わせて行動や考え方を変えていける適応スキルを磨くことを目的として追加した。

2021年度の領域実習も、新型コロナウイルス感染症流行前と比べ、臨地実習の場で過ごす時間や経験が十分であったとは言い難く、今後も卒業していく学生への支援の継続が必要であると思われる。

今回、2021年度「卒業前看護技術フォローアップ研修」に参加した学生たちからの評価や取り組みに対する意見を調査し、今後のフォローアップ研修内容の改善や研修内容の充実について検討したため報告する。

## II. 対象と方法

### 1. 対象者

2021年度卒業予定である藍野大学看護学科92名のうち、「卒業前看護技術フォローアップ研修」への参加を希望した36名を対象とした。

### 2. 「卒業前看護技術フォローアップ研修」へ向けた取り組み

#### 1) 実施時期の選定

学生たちが多忙になると考えられる学位記授与式後を避け、2022年3月11日(金)・2022年3月14日(月)に実施することとした。

#### 2) 実施場所の選定

学生たちが慣れない環境や慣れない物品に合わせて行動や考え方を変えていける適応スキルを磨くことを目的とし、1日目を自校である藍野大学、2日目を他

校である梅花女子大学で実施することとした。

### 3) 研修項目の選定

藍野大学での研修項目、梅花女子大学での研修項目は、それぞれの所属教員が選定した。

藍野大学では、就職後、すぐに必要になると考えられる看護技術を21項目提示し、参加希望者に研修したいと思う項目を5つまで選択させた。そこから、選択数の多かった順に(1)採血・静脈内注射(2)点滴・輸液管理(3)皮下注射・筋肉注射(4)経鼻経管栄養(5)吸引・酸素投与(6)導尿・膀胱留置カテーテル(7)職場でのマナーの7項目を選定した。さらに必須項目として(8)フィジカルアセスメントの1項目を追加し、全体で8項目とした。

梅花女子大学では、(1)バイタルサインチェック(2)点滴・輸液管理(3)採血・静脈内注射(4)皮下注射・筋肉注射(5)膀胱留置カテーテル(6)オムツ交換・陰部洗浄(7)吸引・酸素投与(8)感染予防対策の8項目が選定された。

### 4) 教員配置および学生グループの選定

学生たちが慣れない人との看護実践の経験を通して、対人スキルを磨くことを目的とし、慣れない人との看護実践を経験できるよう、各項目に藍野大学と梅花女子大学の教員が混在するよう配置した。学生グループも藍野大学と梅花女子大学の学生が混在するよう設定した。

## 3. 「卒業前看護技術フォローアップ研修」の実際

### 1) 学生グループの人数

藍野大学での実施は8グループ、各5~7人とした。梅花女子大学での実施は、8グループ、各3~4人とした。

### 2) 各項目の実施時間

学生の人数と集中できる時間を考慮し、1項目40分間とした。また、1日に実施できる項目は1グループ4つまでとした。

### 3) 各項目の内容

#### (1) 採血・静脈内注射

物品を準備した後、採血・静注シミュレーターを使用して採血および静脈内注射の実践を行った。

#### (2) 点滴・輸液管理

物品を準備した後、採血・静注シミュレーターを使用して留置針を挿入し、固定する実践を行った。また、シリンジポンプおよび輸液ポンプの設定を実践した。

#### (3) 皮下注射・筋肉注射

物品を準備した後、薬剤の吸い上げを行い、上腕筋

肉注射シミュレーターと殿筋注射モデルを使用して皮下注射および筋肉注射を実践した。

(4) 経鼻経管栄養

物品の準備をした後、経管栄養シミュレーターを使用してカテーテルの挿入、胃内留置の確認、カテーテルの固定、栄養剤の注入の実践を行った。

(5) 吸引・酸素投与

物品の準備をした後、CPSユニットを使用してモデル人形の口腔および鼻腔からの吸引を実践した。また、モデル人形に酸素マスクまたは経鼻カニューレを装着し、酸素投与の実践を行った。

(6) 導尿・膀胱留置カテーテル

物品を準備した後、滅菌手袋を装着し、陰部モデルを使用して導尿カテーテルの挿入を実践した。また、膀胱留置カテーテルの挿入、固定の実践を行った。

(7) 職場でのマナー

新人看護師が困惑すると考えられるシチュエーションを設定し、電話の対応、ナースコールの対応、患者および来院者への対応、挨拶、報告・連絡・相談のロールプレイを行った。新人看護師役を学生、相手役を教員が行った。

(8) フィジカルアセスメントおよびバイタルサインチェック

フィジカルアセスメントモデルを使用して呼吸音・心音・腸蠕動音の聴取位置の確認と実践を行った。また、血圧や脈拍の測定を実践した。

(9) オムツ交換・陰部洗浄

物品を準備した後、モデル人形を使用してオムツ交換および陰部洗浄の実践を行った。

(10) 感染予防対策

感染予防に関する知識の確認、個人防護具の着脱方法の実践を行った。

3. データ収集方法

対象者全員へ自記式質問紙を配布し、回答は自由意思とした。強制力が生じないように、配布は研修に参加、かつ看護師免許を持たない教員が行った。調査用紙の回収は、回収箱を準備し、留め置き法にて行った。

調査内容は、1) 参加日について 2) フォローアップ研修の全体評価について 3) 看護技術演習項目の評価について(選択式) 4) 他大学の学生や教員が入ったことに関する意見や感想について(自由記述) 5) 研修内容の改善点について(自由記述) 6) コロナ禍での臨地実習で体験できなかったと思うことについて

(自由記述) 7) 就職してからのことを考えて感じる不安について(自由記述) 8) フォローアップ研修が、就職前の支援になったかについて、および良かった点と希望事項について(自由記述)の8項目とした。

4. 分析方法

調査結果はExcelシートに整理後、選択式回答については単純集計、自由記述については、類似した回答をまとめ、記述集計した。

5. 倫理的配慮

藍野大学研究倫理審査委員会の承認を受けて実施した(承認番号:2021-017)。対象者には文書および口頭にて、参加・不参加は自由意思であること、個人情報保護について説明し、研究同意欄への署名にて同意を得た。

Ⅲ. 結 果

質問紙への回答が得られた対象者は25名であった(回答率69.4%)。

1. 参加日について

自校(藍野大学)での実施日のみに参加した者が19名(76%)、他校(梅花女子大学)での実施日のみに参加した者が1名(4%)、両日ともに参加した者が5名(20%)であった。

2. フォローアップ研修の全体評価について

期待通りの内容であったと評価した者が14名(56%)、かなり期待通りの内容であったと評価した者が9名(36%)、無回答が2名(8%)であった。

3. 看護技術演習項目の評価について(選択式)

1) 採血・静脈内注射

この項目を選択して回答した者は13名であった。期待通りの内容であったと評価した者が9名(69.2%)、かなり期待通りの内容であったと評価した者が4名(30.8%)であった。

2) 点滴・輸液管理

この項目を選択して回答した者は12名であった。期待通りの内容であったと評価した者が10名(83.3%)、かなり期待通りの内容であったと評価した者が2名(16.7%)であった。

### 3) 皮下注射・筋肉注射

この項目を選択して回答した者は15名であった。期待通りの内容であったと評価した者が10名(66.7%)、かなり期待通りの内容であったと評価した者が5名(33.3%)であった。

### 4) 経鼻経管栄養

この項目を選択して回答した者は11名であった。全員が期待通りの内容であったと評価した。

### 5) 吸引・酸素投与

この項目を選択して回答した者は12名であった。期待通りの内容であったと評価した者が11名(91.7%)、かなり期待通りの内容であったと評価した者が1名(8.3%)であった。

### 6) 導尿・膀胱留置カテーテル

この項目を選択して回答した者は14名であった。期待通りの内容であったと評価した者が8名(57.1%)、かなり期待通りの内容であったと評価した者が6名(42.9%)であった。

### 7) 職場でのマナー

この項目を選択して回答した者は12名であった。期待通りの内容であったと評価した者が8名(66.7%)、かなり期待通りの内容であったと評価した者が4名(33.3%)であった。

### 8) フィジカルアセスメントおよびバイタルサイン チェック

この項目を選択して回答した者は13名であった。期待通りの内容であったと評価した者が9名(69.2%)、かなり期待通りの内容であったと評価した者が4名(30.8%)であった。

### 9) 陰部洗浄・オムツ交換

この項目を選択して回答した者は2名であった。2名ともに期待通りの内容であったと評価した。

### 10) 感染予防対策

この項目を選択して回答した者は2名であった。2名ともに期待通りの内容であったと評価した。

## 4. 他大学の学生や教員が入ったことに関する意見 や感想について (自由記述)

回答した者は19名であった。「勉強になった」「良かった」との意見が多く、具体的には「他大学の人がいることで新鮮さがあり、現場に近い気持ちと環境で臨むことができた」「他大学での研修は、自校よりも緊張があって実習のように感じた」「他大学との交流がなかったので、楽しくすることができた」「自分の大学では習わなかったことを教えてもらえてよかつ

た」などの意見があった。

## 5. 研修内容の改善点について (自由記述)

回答した者は5名であった。具体的には「もう少し予定を早く言ってほしかった」「職場でのマナーについて、もっと教えてほしかった」「教員によってやり方が異なる」「時間が足りない」などの意見があった。

## 6. コロナ禍での臨地実習で体験できなかったと思うことについて (自由記述)

回答した者は10名であった。具体的には「コミュニケーション」「看護技術」「手術室の見学・救急の見学」「実習自体」「実際の援助」「滴下の計算」「実際の患者への援助」「患者との関わり」などの意見があった。

## 7. 就職してからのことを考えて感じる不安について (自由記述)

回答した者は12名であった。具体的には「マナー」「看護技術」「人間関係」「何を準備しておけば良いかわからず不安」「指示された滴下の計算」「新しい環境で上手く働くことができるか不安」「職場の空気になじめるか不安」などの意見があった。

## 8. フォローアップ研修が、就職前の支援になったかについて、および良かった点と希望事項について (自由記述)

回答した者は15名であった。良かった点の具体的な意見としては「マナーを教えてくれて良かった」「丁寧に指導してもらえた」「危機感を感じることができた」「看護技術について忘れていたことがたくさんあったので、振り返ることができて良かった」「細かい内容でイメージしやすかった」「コツが知れた」「入職してからのイメージができた」「手順の再確認ができた」「現場の実際を聞けた」「新しく関わる人とのコミュニケーションがとれた」「注意点などに気づくことができた」などがあった。希望事項の具体的な意見としては「もう少し時間がほしい」であった。

## IV. 考 察

### 1. 参加日について

学生たちが慣れない環境や慣れない物品に合わせて行動や考え方を変えていける適応スキルを磨くことを目的とし、慣れない場所である他校での看護実践が経



験できるよう、実施場所を分けて2日間実施したが、自校での参加のみが多数であった。このことから、学生たちへ周知する際に「慣れない環境や慣れない物品に合わせて行動や考え方を変えていける適応スキルを磨く」という目的のために、他校での実施日を設けたという意図が十分に伝わっていなかったこと、学生たちが2日間の予定を調整することが時期的に難しかったことが考えられる。

今後、学生への周知内容については、研修の目的を明記する、周知時期も早めるなど見直しが必要であると考える。

## 2. フォローアップ研修の全体評価について

90%の学生が「期待通り」または「かなり期待通り」と回答していることから、フォローアップ研修の全体の内容や流れについては、満足度の高い評価を得たと考えられる。

## 3. 看護技術演習項目の評価について

10項目の看護技術演習において、いずれも「期待通り」または「かなり期待通り」と回答されていることから、満足度の高い評価を得たと考えられる。中でも、採血・静脈内注射、皮下注射・筋肉注射、導尿・膀胱留置カテーテル、職場でのマナー、フィジカルアセスメントおよびバイタルサインチェックの5項目については、「かなり期待通り」と回答した学生が30～40%と多い傾向にあった。このことから、学生たちは、身体侵襲を伴う看護技術や、就職後の早期から必要となる看護技術の習得に対する意識や期待感が高いことが考えられる。

## 4. 他大学の学生や教員が入ったことに関する意見や感想について

学生たちが慣れない人との看護実践の経験を通して、対人スキルを磨くことを目的とし、自校と他校、2つの大学の教員や学生が混在するように配置やグループ設定を行ったが、これは、自校での実施日のみ、他校での実施日のみの参加であっても、条件は同様であった。その結果、自校、他校、どちらかの参加のみであっても、目的の意図が十分に伝わった回答を得ることにつながったと考えられる。また、回答結果から、「慣れない人との看護実践の経験」は、卒業前フォローアップ研修として効果的であり、「楽しさ」「新鮮さ」「緊張感」「学びの充足」につながると考えられた。

## 5. 研修内容の改善点について

「もう少し予定を早く言ってほしかった」との意見があったことから、今後へ向けて、事前の周知時期や周知内容の見直しを検討する必要がある。

項目ごとの実施時間は、学生の人数と集中できる時間を考慮し、1項目40分間としたが、「職場でのマナーについて、もっと教えてほしかった」や「時間が足りない」という意見があったことから、今後へ向けて、看護技術の内容に応じて実施時間を増減するなどの検討も必要であると考ええる。

今回の研修において、各項目を担当する教員間の打ち合わせは、当日に実施したのみであった。「教員によってやり方が異なる」と意見があったことから、他大学の教員と協同して看護技術を指導するのであれば、それぞれの大学での看護技術の習得方法を事前に共有すべきであったと考える。今後へ向けて、事前の打ち合わせの時期や回数を検討する必要がある。

## 6. コロナ禍での臨地実習で体験できなかったと思うことについて

看護技術を含む看護援助の実践や手術室や救急の見学等だけでなく、コミュニケーションや患者との関わりという看護の基本となる経験もできていないという意見があったことから、人との関わりの機会を補う必要があったと考える。今後へ向けて、地域住民やボランティア等の協力を得ながら模擬患者を設定するなど、人との関わりの機会を増やせるような方法を検討する必要がある。

## 7. 就職してからのことを考えて感じる不安について

看護技術だけでなく、「マナー」「人間関係」「職場の空気になじめるか不安」等の意見があったことから、人との関わりの機会が少ないことが不安の要因につながっていることが考えられる。人との関わりの機会が増やせるような方法を検討するとともに、教員や先輩の体験談を聞く機会を設定するなどにも検討していきたいと考える。

## 8. フォローアップ研修が、就職前の支援になったかについて、および良かった点と希望事項について

看護技術の再確認や振り返りだけでなく、「コツが知れた」「入職してからのイメージができた」「現場の実際を聞いた」「新しく関わる人とのコミュニケーションがとれた」等の意見があったことから、卒業前

フォローアップ研修が、少なからず臨地実習で体験できなかった「初めての人」との関わりの機会となり、就職後の未知なる不安を軽減できる機会になったのではないかと考える。しかしながら前述したように、臨地実習で体験できなかった「初めての人」との関わりの機会が十分で、就職後の未知なる不安が払拭できたとは言い難いため、今後へ向けての検討が必要である。

## V. ま と め

1. 卒業前フォローアップ研修全体および各看護技術項目については、満足度の高い評価を得ることができた。
2. 学生たちは、身体侵襲を伴う看護技術や、就職後の早期から必要となる看護技術の習得に対する意識や期待感が高いことが考えられる。
3. 「慣れない人との看護実践の経験」は、卒業前フォローアップ研修として効果的であり、「楽しさ」「新鮮さ」「緊張感」「学びの充足」につながると考えられる。
4. 卒業前フォローアップ研修の実施時期および周知時期や周知内容の見直し、看護技術の内容に応じた実施時間の増減、他大学教員との看護技術習得方法の摺合せ、地域住民やボランティア等の協力を得た模擬患者の設定、教員や先輩の体験談を聞く機会の設定などが今後の検討課題である。

## 謝 辞

質問紙調査にご協力いただいた学生の皆さまに心よ

り感謝申し上げます。また、本研修を実施するにあたり、多大なご協力を賜りました梅花女子大学看護学部  
の先生方に深く感謝申し上げます。

提示すべき利益相反（COI）はない。

## 文 献

- 大屋富彦, 江尻晴美, 荒川尚子, 他 (2022) : 成人看護技術の習得に向けた就職前準備教育プログラムの構築, 中部大学生命健康科学研究所紀要, 18, 49-54.
- 間瀬由記, 加藤木真史, 細谷陽, 他 (2022) : 新型コロナウイルス感染症の影響に係る大学基盤型新人看護職員卒業後フォローアップ研修プログラムの実践報告, 神奈川県立保健福祉大学誌, 19(1), 163-173.
- 水戸優子, 加藤木真史, 間瀬由記, 他 (2022) : 新型コロナウイルスの影響に係る大学基盤型新人看護職員卒業後フォローアップ研修プログラムの構築, 神奈川県立保健福祉大学誌, 19(1), 151-162.
- 文部科学省初等中等教育局, 文部科学省高等教育局, 厚生労働省医政局, 他 (2021) : 新型コロナウイルス感染症の発生に伴う医療関係職種等の各学校, 養成所及び養成施設等の対応について. URL: [https://www.mext.go.jp/content/20200624-mxt\\_kouhou01-000004520\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20200624-mxt_kouhou01-000004520_1.pdf). (閲覧日 2021. 12. 27)
- 中山由美, 重年清香, 渡邊敦子 (2022) : COVID-19 禍における看護学生への卒業直前看護技術フォローアップ研修, 梅花女子大学看護保健学部紀要, (12), 26-32.
- 佐藤千明 (2022) : 【メカニズムを知って対処する 新人看護師のリアリティショック】リアリティショックを防ぐ取り組み 臨地実習が制限された新卒に対する新たな教育プログラム, Nursing BUSINESS, 16 (4), 324-330.